

令和4年度 栃木国体視察 レポート

2022年10月3日(月)～4日(火)

会場：真岡総合運動公園 他各会場

作成者：大久保 翔悟(磐田西高校)

1. 【視察した試合】

静岡県選抜 VS 新潟県選抜	2 - 3	(2回戦)
広島県選抜 VS 神奈川県選抜	0 - 4	(2回戦)
東京都選抜 VS 愛知県選抜	2 - 0	(2回戦)
青森県選抜 VS 宮城県選抜	3 - 0	(準々決勝)
東京都選抜 VS 神奈川県選抜	1 - 2	(準々決勝)

2. 【中学年代(U16)までに必要な事】

原理原則に基づき攻守ともにプレーする力が求められると考える。攻撃については動きながら“みる”事や、ボールや身体を使いこなすことだと感じる。守備については、単独でボールを奪う力、グループで連動・連続しボールを奪う力、また守備の優先順位の戦術的理解度が重要だと感じた。5試合見させていただき、各ポジションの『標準装備』が何かを整理する事ができた。例えば、DFでは相手ロングボールを適切に処理し前方の味方にパスをする能力やビルドアップで前進していく事は標準装備されており、プラス α の能力として高さやロングフィードでゲームの展開を変える力などがある。MF(中央)では、ビルドアップ時にDFラインを繋ぎ、状況によってはターンができ、相手のバイタルエリアに進入する事が標準装備である。選手によっては、逆サイドへの展開力やFWへの決定的なスルーパスを通すことができる。また、高さを兼ね揃えており、相手のMFをつぶす事に長けている選手もいる。MF(アタッカー)では、守備時に個人でボールを奪えて、個人でドリブル突破ができる選手が標準装備である。プラス α で、カットインからのシュートやカットインからのスルーパス・ワンツーでゴールに迫ることができる。FWでは、得点する自分自身の形があることと前線からの守備と中盤の守備ができることが標準装備であり、プラス α で、セットプレーのキッカーを務めるなどチームで求められている事に対応する力も重要だと感じた。

3. 【自チームに生かせること】

上記で記載した、原理原則を理解した上でプレーできるように攻撃面では技術の習得と動きながら判断すること。守備面では個人でボールを奪いに行く強さとグループでボールを奪いに行く方法については自チームでは生かすことができると考える。また、選手がミスを恐れず積極的にチャレンジできる環境を指導者が整える事や自身で考え・問題を自分で解決できるようにサポートしていくという環境面においてもできる事を感じた。

4. 【その他（各自のトピック）】

私のテーマは、『オールマイティーかつスペシャリストな選手』に必要な要素です。攻撃・守備・攻守の切り替えにおいて、原理原則を理解し、プレーしているかをオールマイティーの観点として見ました。どのチームのどの選手もサッカー観があり、オールマイティーなプレーの質は高かった。どの選手もプレミアリーグかプリンスリーグに所属しており、日常の環境がオールマイティーな要素を成長させる環境にいるのだと考えられる。スペシャリティーの向上をしていくには、15歳までにスペシャリティーを大きく持った選手にこの環境下でプレーさせることも一つの考え方としてはあるのではないかと考える。

5. 【大会全般を通して】

登録選手16名で、最大5試合を行わなければならない過密日程であり、大会レギュレーションは非常に難しい大会だと感じた。16歳の選手がトーナメント方式で闘う時に、『一度狂った歯車を戻す方法（メンタル面）』も非常に重要な要素だと感じた。

静岡県選抜については直前での怪我人の多発など選手選考からスタッフの皆様が頭を悩ませたことと思います。練習会から一貫して選手に伝えていたキーワードや、目指したいサッカーの全体像はできていたように感じます。

2回戦・準々決勝と連続で神奈川県選抜と東京都選抜の試合を見させていただきました。疲労も溜まってくる準々決勝以降に備えて、メンバーの選考も見ることができました。特に神奈川県選抜が印象的で、スピードのあるFWとそこまで先発していたCBを2回戦では出場させず準々決勝で先発出場をさせていました。優勝するためには、交代選手含めた起用のマネジメント力も5試合通して必要になってくる。準々決勝では、0-1でリードされている場面で、早いタイミングで交代カード切ったり、後半には前線の選手の2枚交代、その中の選手が決勝点と神奈川県選抜の監督の采配も印象的でした。

今回は視察させていただき、関係者の皆様ありがとうございました。今回の経験を静岡県のために生かせるように日々活動していきます。